

平成23年度特別展等事業計画

- 企画展 **寄贈記念「野澤如洋展」**  
 主催 青森県立郷土館  
 会期 4月22日(金)～5月15日(日)  
 開館時間 午前9時～午後5時  
 観覧料 通常料金
- ◎ 土曜セミナー 5月7日～ 毎週土曜日 午後1時30分  
 郷土館小ホールほか
- 共催展 **写真展「土門拳の昭和」**  
 主催 A TV青森テレビ 青森県立郷土館  
 会期 5月20日(金)～7月3日(日)  
 観覧料 一般・大学生1,000円(800円)、  
 中学・高校生700円(500円) 小学生以下無料
- 特別展 **地域総合展「十和田湖・八甲田山」**  
 主催 青森県立郷土館  
 会期 7月15日(金)～9月11日(日)  
 観覧料 一般500円(400円)、  
 大学生・高校生240円(200円) 中学生以下無料
- △ 自然観察会 7月24日(日) 十和田市蔦沼 定員50名
- 郷土館クイズラリー 7月下旬～8月下旬 小・中学生対象
- 夏休み子供の国 7月31日(日) 体験教室 小・中学生対象
- 共催展 **「八代亜紀 アートの世界展」**  
 主催 東奥日報社 青森県立郷土館  
 会期 9月17日(土)～10月16日(日)  
 観覧料 未定
- 企画展 **「今純三と考現学展」**  
 主催 青森県立郷土館  
 会期 10月28日(金)～11月27日(日)  
 観覧料 通常料金
- 特別展 **青森県博物館ロード「青い森の宝箱 一県内博物館大集合!!」**  
 主催 青森県立郷土館  
 会期 12月9日(金)～平成24年1月29日(日)



**利用案内**  
 ○開館時間 午前9時～午後5時 ただし 共催展は午後6時まで。  
 ○休館日 4月21日 5月16日 5月19日 7月4日 7月14日 9月12日 9月16日  
 10月17日 10月27日 11月28日 10月27日 12月8日 1月30日  
 年末年始 12月29日～1月3日 工事休館 2月3日～3月31日  
 ◎常設展観覧料 【通常期間】(3月～12月) 一般310円(250円) 大学・高校生150円(120円)  
 【特定期間】(1月・2月) 一般250円(200円) 大学・高校生120円(100円)

人事異動		○学芸課				
(職名は転出は3月31日転入は4月1日)		(転出)	研究主幹	安田 道	(退職) 解説員	松岡 彩
○総務課		(転出)	研究主幹	工藤 睦美	(退職) 解説員	葛西 優花
(転出) 主 幹	田中 博	(転入)	主任研究主査	豊田 雅彦	(採用) 解説員	澤田 佳那
(転出) 主 査	油布 恵美	(転入)	主任研究主査	佐藤 良宣	(採用) 解説員	白戸 美和
(転入) 主幹・副課長	水口 和彦	(転入)	研究員	増田 公寧	(採用) 解説員	瀧本 知佳子
(転入) 主 査	横山 みのり					杉田 真規

# 青森県立郷土館だより

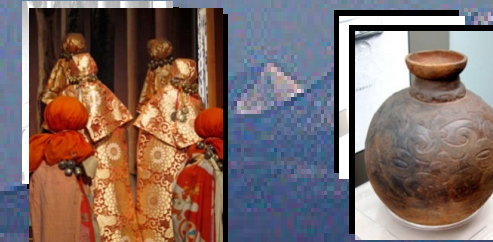
Aomori Prefectural Museum

通巻149号 平成23年(2011)3月31日 Vol.41 No.2

## 平成23年度の特別展示



特別展  
**地域総合展**  
**十和田湖・八甲田山**  
 会期 7月15日(金)～9月11日(日)



特別展  
**青森県博物館ロード**  
**青い森の宝箱**  
**一県内博物館名品大集合!!**  
 会期 12月9日(金)～平成24年1月29日(日)



青森県立郷土館では、4月に寄贈記念「野澤如洋展」を開催します。

7月に地域総合展「十和田湖・八甲田山」を開催します。地域総合展は、平成元年「岩木山」、平成3年「下北半島」に続く3回目になり、観光・自然・歴史・民俗・美術等さまざまな視点で取り上げます。東北新幹線全線開業後初の観光シーズンを迎えるにあたり、観光客ばかりでなく、県民には新たな一面を再発見できる展示会とします。

10月に企画展「今純三と考現学展」を開催します

12月には、青森県博物館ロード「青い森の宝箱 一県内博物館名品大集合!!」を開催します。これは重点事業「青森県博物館ロード～青森の文化遺産・お宝紹介事業」の一環として、県内の博物館等が所蔵する「お宝」資料100点程度を、郷土館に一堂に展示し、青森県の文化遺産を紹介する展示です。

青森県立郷土館だより Vol.41 No.2 通巻148号 2011.3.31  
 【編集・発行】 青森県立郷土館 〒030-0802 青森市本町二丁目8-14  
 【TEL】 017(777)1585(代) 【Fax】 017(777)1588  
 【電子メール】 E-KYODOKAN@pref.aomori.lg.jp  
 【ホームページ】 http://www.pref.aomori.lg.jp/bunka/culture/kyodokan.html

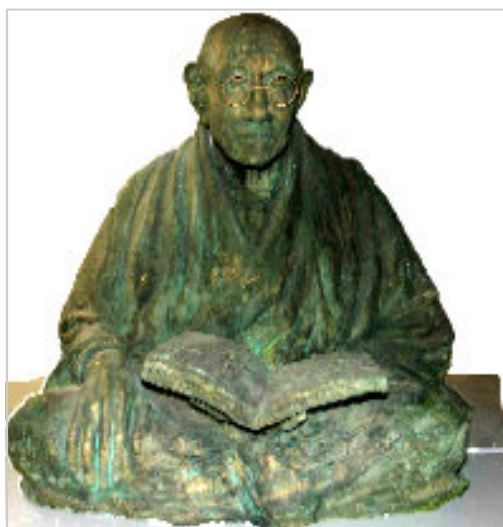


**博物学者 和田千蔵**

青森県博物学の基礎を築いた和田千蔵（1889-1981）は、青森県師範学校等の博物学（生物学）の教官として、多くの卒業生に影響を与え、青森県自然史解明の大きな原動力となった。和田千蔵の教訓をうけた多くの教え子が、その後の青森県の博物学を発展させた。

和田千蔵は、明治22年2月南津軽郡竹館村大字唐竹（現、平川市）に生まれた。明治41年3月に南津軽郡立農学校（甲種）を卒業後、明治42年4月には東京高等農学校特別科入学、明治44年11月に東京農業大学二年編入し、大正2年3月に同校を卒業した。そして大正3年7月に青森県師範学校の教諭として赴任し、昭和18年4月に青森師範学校教授に、昭和25年1月には弘前大学教授（教育学部）に、昭和32年3月には弘前大学を退職した。その後、昭和37年青森短期大学教授、昭和43年青森大学教授、昭和49年同大学退職した。また、青森県文化財審議会委員、青森県自然環境保全審議会委員、青森県立公園審議会委員なども歴任した。

和田千蔵は多くの業績を残している。その中で大正9年に農商務省（現農林省）農務局から鳥類の渡り及び繁殖状況調査を、更に大正11年には同局から獣類調査も囑託され、その後20年間にわたって報告をしている。当時の青森県の鳥獣の動向を知る上で必見の資料となっている。また、昭和3年、齋藤報恩会（仙台市）の学術研究補助費を受けて行った八甲田山の青蛙（モリアオガエル）の生態研究は有名で、昭和6年4月に「八甲田山に於ける青蛙の研究」と言う174頁に及ぶ報告書を公表している。



和田千蔵先生座像（青森県立郷土館蔵）

青森県師範学校には研究論文を公表する「青森県師範学校校友会誌」が古くから刊行されていた。昭和8年になって、同会誌の付録として「郷土号」が刊行された。この郷土号には和田千蔵の「我郷土のブラキストン線」（1号）、「我郷土の天然記念物」（2号）など青森県に関わる多くの博物学研究が掲載されている。また昭和9年、青森県師範学校博物学教室に「青森博物研究会」が和田千蔵を中心に設立された。「青森博物研究会会報」を年2回、「青森博物研究会時報」を臨時刊行していた。昭和14年に8・9号として刊行された青森県博物目録第1巻、そして同第2巻（昭和16年、10・11号）は、青森県の動植物の総目録であり、県単位の生物目録の先鞭をつけたと言われて、高く評価されている。

青森博物研究会を継承するかのごとく、昭和31年に青森県生物学会が、和田千蔵を始め代表発起人14名で、当時の弘前大学文理学部生物学教室に事務局を置き設立された。設立後も和田千蔵は同学会の理事として学会の運営にたずさわわり、後進の指導にあたった。青森県立郷土館の開設にも多大な尽力をいただいた。昭和48年開館からは2期にわたり青森県立郷土館協議会委員として開館間もない博物館運営の指導助言をいただいた。

和田千蔵は、青森県の博物学研究に大きな業績を残した。これらの功績に対して東奥賞（昭和38年）、青森県文化賞（昭和48年）そして昭和43年には勲三等瑞宝章を授章した。

（学芸課副課長  
（自然）  
山内 智

『郷土号』 第一号  
青森県師範学校校友会  
（昭和八年三月十五日印刷 昭和八年三月二十日発行）

目次

一部	二部	専攻科	藤田 利一郎
郷土号の発刊に際して 青森県師範学校長	郷土鬼神社	四年	太田 武
青森県に於ける舊藩覺	善知鳥村名稱の起源	四年	北川 武城
青森県の先史時代遺跡と蝦夷	法峠	三年	高橋 政美
伊能忠敬の南部津軽測量	夏泊半島	三年	江渡 保雄
謡曲に見る傳説	小河原沼から出た千手観音	四年	菊地 正秀
假名遣の誤について	小湊附近の一考察	四年	西田 要一
青森県の方言	方言研究断片	五年	寺島 正二
上北地方の農家	北郡中里村の童謡	専攻科	山本 猛雄
郷土地理について	青森県産薬用植物の効果について	三年	工藤 儀一郎
青森県西海岸の地質	金木町に於ける氣象状態について	専攻科	岩谷 正雄
我郷土のブラキストン線	青森県内名勝舊跡	歴史研究室	
郷土教育上から眺めた下北半島の地質	坂上田村鷹傳説	専攻科	藤田 利一郎
	青森県郷土関係圖書	齋藤 鐵太郎	調査



第3回北東北三県共同展  
「境界に生きた人々～遺物でたどる北東北のあゆみ」  
◇◆平成22年9月17日(金)～10月24日(日)◆◇

政治の中心から遠く隔たっていた北東北は「北の辺境」とみなされ、そこに住む人々は「俘囚」「蝦夷」と呼ばれました。しかし、列島全体からみれば、北東北は「北方の文化」と「中央の文化」が重なり合い、活発な交流や交易の機会に恵まれた地域でした。

異なる文化の境界に生きた北東北の人々は、独自のアイデンティティーを育み、豊かな文化をかたち作っていました。本展は、北東北のもつ多様性に着目し、境界に位置する「北東北世界」ともいうべき豊かな地域像を提供しました。◇70を越える遺跡の出土遺物や絵画・文書・道具類など、約1000点(重文含む)を出品しました。

観覧者数 3,574人

東北新幹線全線開業記念 特別展  
「青森のわざ～伝統工芸のいま」  
◇◆平成22年12月11日(土)～平成23年2月20日(日)◆◇

◇陶芸・染織・木竹工・漆芸・人形・金工など約50作を厳選し、本県伝統工芸の世界を紹介しました。

□関連講座（土曜セミナー 各回13時30分～15時）

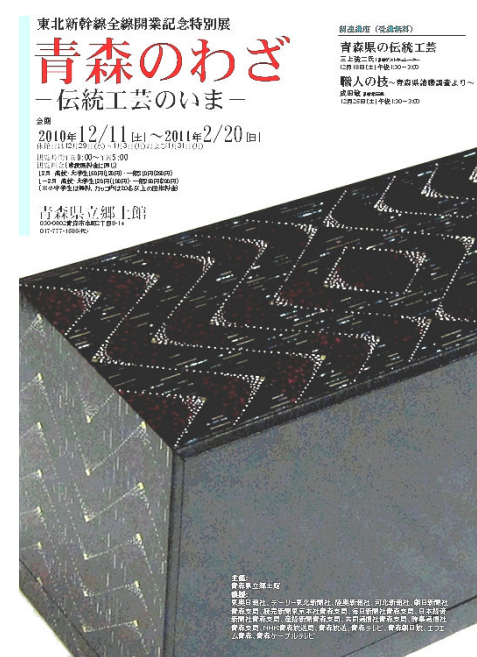
12月18日（土）三上強二「青森県の伝統工芸」

12月25日（土）成田 敏「職人の技～青森県諸職調査より～」

□ギャラリートーク「青森のわざ」

- (1) 1月 8日(土) 今井 理桂 氏(陶芸)
- (2) 1月15日(土) 鎌田 光展 氏(染織)
- (3) 1月29日(土) 阿保 六知秀 氏(人形・玩具)
- (4) 2月 5日(土) 岩谷 武治 氏(漆芸)
- (5) 2月19日(土) 渡邊 恵美子 氏(染織)

観覧者数 2,920人



企画展  
「新収蔵2010」

◇◆平成23年2月26日(土)～4月10日(日)◆◇

本県日本画家で著名な、野沢如洋の代表作など当館の収集活動（寄贈・収集・生産・購入）や最新の研究状況を紹介します。中でも昭和30年代の普通の人々の暮らしぶりをとらえた、懐かしい写真を多数展示しました。

主要展示品

・本県出身の日本画家・野沢如洋の代表作「春の海・秋の海」（美術分野）

・松浦武四郎「東西蝦夷山川地理取調図」（歴史分野）

・青森高校社会研究部の発掘品（考古分野）

・佐々木直亮氏撮影の昭和30年代の写真（民俗分野）

観覧者数 314人

（3月11日東日本大震災 中断終了）

